

氏名： 牛江 ゆき子 (USHIE Yukiko)  
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系  
学位： 文学修士 (1982 東京大学)  
職名： 教授  
専門分野： 英語学、特に意味論と語用論  
E-mail： ushie.yukiko@ocha.ac.jp

#### ◆研究キーワード / Keywords

字幕翻訳／英語教育  
subtitle translation / English education

#### ◆主要業績

総数 (2) 件

- 牛江ゆき子・西尾道子「映画の字幕表現の具体性に関する一考察」『翻訳研究への招待 2』日本通訳学会翻訳研究分科会編 pp.75 - 91
- 松藤薫子・絹谷弘子・牛江ゆき子「自律協働型語学学習環境の構築を目指して」外国語教育メディア学会第47回(2007年度)全国研究大会

#### ◆研究内容 / Research Pursuits

##### (1) 映画の字幕翻訳の研究

映画の字幕翻訳において起点言語のせりふの表現と着点言語の字幕の表現とで具体性の度合いにずれがある場合があることに注目し、1) 具体化と一般化の際のせりふと字幕の意味的な等価性の有無、2) 具体化と一般化が生じる理由とその効果について考察を行った。具体化と一般化のどちらの場合においても、せりふと字幕とであらわされる意味内容や両者の機能はほぼ等価であること、受け手の処理労力を軽減する効果を持つことを明らかにした。

##### (2) 英語の自律的学習支援の研究 (学内共同研究)

学生の英語の自律的学習の実態と支援についての希望を調査するアンケートを実施した。教材についての情報提供が望まれているという結果に基づき、自律的学習用の教材をレベル・スキル・学習形態別に分類し、その情報と利用者の感想をデータベース化し、学生が閲覧・検索できるようにした。

(1) Ushie and Nishio (2008) studied a strategy employed during the translation of movie subtitles: change in the degree of specificity of expressions in the original lines and the translated subtitles. We explored 1) whether the original meaning is retained when the degree of specificity increases or decreases in the subtitles; 2) the role the change in the degree of specificity plays in the understanding of viewers; and 3) what kind of original expressions are likely to be candidates for the change in the degree of specificity. We argued that both increasing and decreasing the degree of specificity serve to reduce the processing cost of the viewers while retaining "dynamic equivalence" as defined by Nida (1964) between the original lines and the subtitles.

(2) Ushie et al. aimed at establishing a learner environment promoting autonomous language study. We found a great variation in the needs of students concerning materials. We analyzed the materials according to difficulty, focus of learning skills and various types of media. Then a database was made for students to enable them to choose appropriate materials.

## ◆教育内容 / Educational Pursuits

本学の英語教育では、英語で知的にコミュニケーションが取れる国際人の育成をめざし、英語の文章の構造や論理の展開の仕方を理解させ、論理的な思考力を身につけさせることを重視している。したがって、担当する基礎英語・中級英語の授業では、英語の論理的な文章を読んだり、レクチャーを聞いたりして、論点と、論点がどのようにサポートされているかを把握する訓練を行った。また、授業時間は限られているため、課題として、読書レポートや、トランスクリプション（書き取り）、自分でリスニング等の課題を選んで学習する自由選択課題等を課し、英語力養成を図った。

英語圏の専門科目「英文法」では、英語の文法の基本的概念の体系的な理解と論理的な文章の正確な読む力の養成をめざして授業を行った。「対照表現学Ⅰ」では、英語で意見を述べる文章の書き方を教えた。

Core English classes at Ochanomizu University aim to develop students' skills in communicating in English by developing both English skills, and logical and critical thinking skills. Therefore, in Basic English and Intermediate English classes, focus was on improving skills in comprehending expository reading and listening materials. Students were taught the logical organization of English paragraphs and essays and how they differ from those in Japanese. They were trained to grasp the main points of expository essays and lectures and to understand how these main points are supported. Students were also given various assignments (transcription, reading report, etc.) to improve their English skills.

In English Grammar, focus was on teaching basic concepts and principles in scientific analysis of the grammar of English and improving skills in reading expository writing accurately. In Contrastive Expository Writing I, argumentative essay writing was taught.

## ◆研究計画

映画の字幕翻訳の研究を継続し、日英の映画の字幕翻訳においてポライトネスが維持されるかどうかについて研究を行う予定である。

## ◆メッセージ

今、英語について「文法は間違っているけど、通じさえすればよい」という考え方が主流になりつつあり、文法が軽視されがちです。しかし、文法がしっかりと身につけていないと、あるレベル以上の英語を正確に理解し、伝えたいことを正確に伝えられるようになりません。文法を習得するためには、文法概念を理解するほか、たくさんの英語を読んだり、聞いたり、音読をしたりといった地道な努力が必要です。

さらに、日本語でも英語でも同じですが、コミュニケーションを行うには、論理的な思考力が不可欠です。論理的な思考力も簡単に身につくものではありません。

大学の4年間では、見かけだけの流暢さを追うのではなく、地道な努力をして、たとえつたなくとも、本当に実のあるコミュニケーションが英語で行えるようにしましょう。